

|       |                |     |      |
|-------|----------------|-----|------|
| 授業科目名 | 漢文学特論(2100259) |     |      |
| 時間割名  | 漢文学特論(42114)   |     |      |
| 時間割担当 | 山田明広           |     |      |
| 実施期   | 前期             | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 木・2            |     |      |

### 授業の目標・概要

中国文学の全体像を把握しながら、個別作家の作品を読み解く道筋を探索する。特に文学史的に作家や作品を羅列して文学潮流をトレースするのではなく、ある特定の時代に生き、その時代の中で独自の文学世界を構築した作家の優れた作品を、どのように読むのかということを考える。そのことによって、文学とはなにかということを考える力を養う。

### 学習の到達目標

本講義の目標は以下のとおりである。

- (1) 漢詩を読むために必要な基本的な方法や知識を身につける。
- (2) 漢詩を読解し、鑑賞するための工具書とその使用法を学び、独力で意味が理解できるようになる。
- (3) 多様な解釈をされる漢詩があることを知り、自身の読解力、鑑賞力に基づき、詩の解釈に一定の判断を下すことができる。
- (4) 李商隠詩の鑑賞を通して、時代と詩人の関係について考える力を養う。

### 授業方法・形式

中国古典文学の詩歌解釈の手法を使って、漢詩を精読し、鑑賞する授業。受講生は、五感を使って語彙のイメージや情景をつかみ、積極的に発言することがもめられる。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 授業の到達目標、進め方、授業計画、評価の仕方について説明。  
ノートの取り方、予習の仕方を講義する。
- 第2回 李商隠の生涯と詩の特色 『李商隠詩選』「解説」p.327-p.353に基づき、李商隠の経歴、李商隠の生きた時代、詩の特色、注釈書、参考文献について、理解を深める。
- 第3回 錦瑟（『李商隠詩選』p.15-p.19） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第4回 重過聖女祠（『李商隠詩選』p.19-p.23） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第5回 霜月（『李商隠詩選』p.23-p.25） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第6回 異俗二首其一（『李商隠詩選』p.25-p.27） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第7回 異俗二首其二（『李商隠詩選』p.27-p.30） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第8回 蝉（『李商隠詩選』p.30-p.33） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第9回 潭州（『李商隠詩選』p.33-p.38） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第10回 哭劉司戸二首其一（『李商隠詩選』p.38-p.40） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。

### 成績評価の基準

【授業計画の続き】

- 第11回 哭劉司戸二首其二（『李商隠詩選』p.40-p.44） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第12回 楽遊（『李商隠詩選』p.44-p.45） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第13回 北齊二首其一（『李商隠詩選』p.45-p.48） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第14回 北齊二首其二（『李商隠詩選』p.48-p.50） 「語注」の語彙について、出典に立ち戻り、意味を確認する。主に清代、近現代の注釈書を参照して、現代の若い読者を対象とした日本語訳を作る。
- 第15回 総復習 この Semester で読んだ李商隠の詩の特色について議論し、互いに理解を深める。詩歌解釈の手法について整理し、理解の定着を目指す。

【成績評価の基準】

毎回の授業でワークシートを提出。授業の理解度を問う（50%）。白文、書き下し文、現代日本語訳、語釈を書き込んだノートの提出（20%）。漢詩鑑賞をテーマとした学期末レポート（30%）。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可0点とする。

### 準備学習・復習及び授

予習：白文をノートに書き込んでおく。書き下し文や日本語訳も事前に書き込んでおくのがのぞましい。

事前に調査する語彙を指示された場合、調べた上で授業に来ること。

復習：授業が終わるごとにノートを整理し、学期の最後に提出できるように少しずつ準備をすすめること。

### 履修上のアドバイス及

「漢文学入門」「漢文学」「漢文学」「語学・文学総合演習（漢文学）」を受講した後に受講するのがのぞましい。

### 教材・教科書

配付プリントを使用。

### 参考書

・参考書：川合康三『中国の恋のうた 『詩経』から李商隠まで』（岩波書店）、詹滿江『李商隠研究』（汲古書院）、高橋和巳『李商隠』（河出書房出版社）、森岡ゆかり『近代漢詩のアジアとの邂逅』（勉誠出版）